

# 自然史科学と環境教育を両輪とした研究

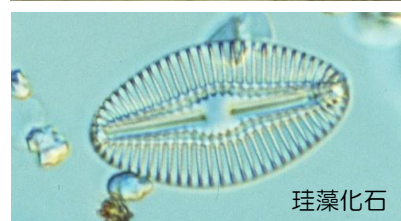
教員名：佐藤裕司

連絡先メールアドレス：h-sato<atmark>hitohaku.jp

## ◎ どのような研究をしていて、どんなことに役立つのか？

‘過去に学び、現在を知り、未来へ生かす’という自然史科学の視点と地球的視座に立ち、地域環境の歴史性と多様性の理解を深める研究を行っています。その研究のための環境指標として、珪藻などの藻類を用いています。

また、自然の恵みと災いの二面性への理解を環境教育の中に位置づけ、自然史リテラシーを育成するための手法開発にも取り組んでいます。このような自然史からの環境学へのアプローチは、現在を正しく位置づけ、未来を予測し、直面する環境問題に対処する道標になると考えています。



## ◎ 主な研究業績

- 1) 《自然史科学に関する研究》 H. Sato et al., (2017) Sea-level variations during Marine Isotope Stage 7 and coastal tectonics in the eastern Seto Inland Sea area, western Japan. *Quaternary International*, 456: 102-116. 佐藤裕司ほか (2013) 安室川(兵庫県上郡町)に生育する淡水産紅藻チスジノリ (*Thorea okadae* Yamada) の生活史と季節変化. *藻類*, 61, 1-5.
- 2) 《環境教育に関する研究》 岸本清明・神田英昭・佐藤裕司 (2014) 小学校6年生理科「大地のつくり」における恐竜化石の活用と地質フィールドワークの効果 — 大地の営みをもたらす恩恵と災いを伝える試み —. *人と自然*, 25: 111-123.

## ◎ 院生の研究課題例

- ・瀬戸内海沿岸域における環境変動史の解明
- ・兵庫県内小学校における環境学習の実態とその改善に関する研究
- ・ジャコウアゲハを用いた生物多様性の環境学習に関する実証的研究
- ・前期更新世における大阪堆積盆地北西部の環境変遷

## ◎ 学生に向けて一言

研究室は「兵庫県立人と自然の博物館」内にあり、博物館の研究開発部門・地球科学研究グループに属します。当研究室では、博物館の研究者と一緒に行動し、さまざまな博物館活動を通して学ぶ機会を提供します。自然や環境に興味を持ち、研究だけでなく、社会貢献活動にも積極的な学生を歓迎します。